

巻頭言

「東日本大震災 10年目とコロナ感染」

理事長 新谷友良

2011年3月11日午後2時46分、東日本大震災が起きました。その時の様子を、協会組織部が発行した「ネットワーク・ニュース東北太平洋沖地震関連臨時号」に「3月11日午後、会議のために西新橋から虎ノ門方向、霞が関ビルに向かって歩いていました。足元が不安定になったので、めまいかな?と思ったのですが、道路の向かいのビルを見ると大きく揺れています。ビルの上の方が大きく揺れて隣のビルにぶつかかりそうになっています。地震だ!と思ったのですが、いつもより長い時間揺れが続いています。周りのビルから続々と人が出てきて、あっという間に歩道が埋まりました。」と書きました。

5月になって、東北新幹線が復旧したので、仙台の若林区荒浜に行きました。新幹線の車窓からは、ブルーシートを被せた家が次々に見えました。津波の引いた荒浜は何もないのっぺらぼうの地平で、防波堤か川の堤防か分かりませんが、大きなコンクリートの残骸が四方に散らばっていました。荒浜から仙台駅に戻る道路も、市中とは思えないうねりが続いていました。

12月、障がい者制度改革推進会議のメンバーと福島に行きました。1日目、「被災地障がい者支援センターふくしま」で、「つながり∞ふくしま南相馬ファクトリー缶バッジ製作支援」の仲間と話し合いをしました。その日は、福島県庁での話し合いのあと、マイクロバスで南相馬に移動しました。途中、計画的避難区域に指定されていた飯館村を通りましたが、真っ暗闇の中、1軒コンビニの明かりが煌々と灯っていました。村民の利用は全くなく、汚染土壌処理の作業員の方のために開業している、とあとから聞きました。翌朝、列車の動いていない南相馬駅前には、汚染処理の作業員送迎バスで混雑していました。昨日乗ってきたマイクロバスで、立ち入り禁止区域になっている福島第1原発の北側入り口ぎりぎりまで行きましたが、中に入ることはできずに、2時間位一緒に行った人とゲートに沿って中の様子を見ていました。

「ネットワーク・ニュース臨時号」の最終号に、「●在来線が復旧したら以前に記憶のある気仙沼と宮古に行く●福島原発事故の処理をしている現場の人のことを考える●少しのお金をできるだけ長くカンパする」と書きました。10年経って、どれほどのことができたか、新型コロナ感染でも、同じことを繰り返してしまうのか、気持ちが落ち込んでいます。